

江幡太穠先生選評



杉山 恵美子 推選
潤濁、大小、太細、字幅の広狭、字形の縦横どれを見ても申し分ない素晴らしい作品です。これからもこのリズム、動き忘れず力作を期待しております。

伊藤 由香 推選
仮名の表情の豊かさ、線の強さが眼を引き白が美しく広がりがあり動きの大きな作品です。「空・曇」の転折角度が同じ様で少し気になる所です。

石山 誠 推選
独特な文字の表情、大胆な動き、強弱お見事です。欲を言えば渴筆がもっと欲しかったのと「山椒」の筆路が分かりにくかったのが残念。書き終えたら見直しを。

森川 雨琴 推選
墨色美しく細線だが弱くならずリズム良く抑揚のある作品です。場所が近い「り」が二つとも同じ大きさ、細さなのはどうか？表情、大きさなどの変化を。

若林久美子先生選評



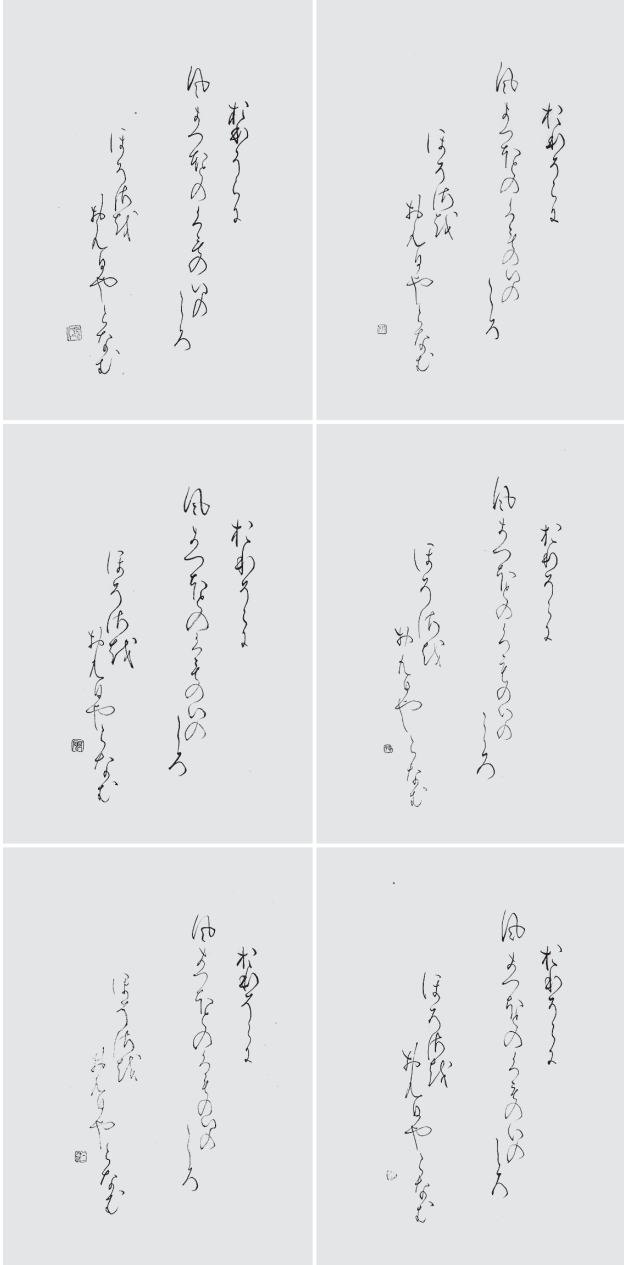
鷺岡青湖 推選
 大きな構えで柔毛筆を駆使し、泰然自若としている。肉厚で温かな線も表情豊かで揺るぎのないものとなっている。落款は少々窮屈に感じる。

清水佳苑 推選
 素直な運筆で鄭道昭の柔らかさ、優しさを特化させた表現方法に賛成したい。穏やかな呼吸で清澄な線を奏で、雄大な雲峰山に聳える碑を想い出しました。

佐藤静連 推選
 正面からドーンと切り込んでゆく度胸に圧倒される。深く重厚な線、転折での筆捌き、横画のうねり、字形の研究、と全てに研鑽の成果が現れている。

鯨井香織 推選
 熟成された筆致で練れた線を繰り出し、深く長い呼吸も相俟って章法に富んでいる安定した作。ハラハラドキドキの展開の作品にも挑戦してみてください。

久保田淳子先生選評



栗林和江 八段
しつかり紙面を捉え字間の伸縮の変化と共に小さめの線が勁く大きく見える。その上渴筆の魅力が加われは、一層典麗な小島切に近づくでしょう。

村上春風 七段
直筆を巧みに、大らかな心情が窺える作。全体同じリズムが聞こえるが速く、遅く、と変化があっても楽しい。非常に美しく纏まって居る。

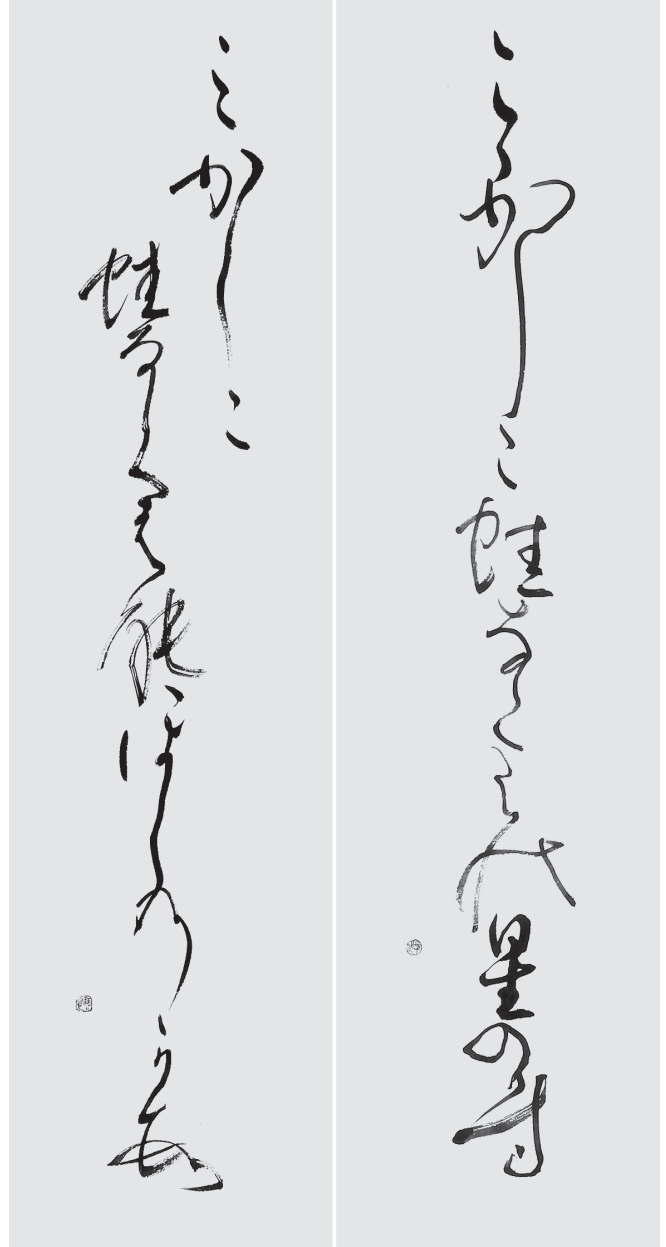
川口三千代 六段
書き出しリズムよく文字間の連綿も変化をつけ、力まらず自然な運筆に魅力あり。全体に渴筆が多いので、墨量を考慮して見ましよう。

前馬陽代 師範
文字の姿が雅で、古筆の伸びやかな運筆、渴筆の妙も加えて、温かい雰囲気を持つ作品になって居る。後半がざらりとし過ぎたのが惜まれる。

鈴木愛子 師範
やや細めの線。連綿がずつと続き呼吸の長さに静かな空気が流れて居る。作品のポイントとして潤渴の変化をはっきりつけてもよかったです。

山本弘美 準師
浮沈の効いた丁寧な運筆。優美さに加え、連綿線が生きて大きな流れも美しい。随所に古筆の響きも表現されて心地よい余韻となって居る。

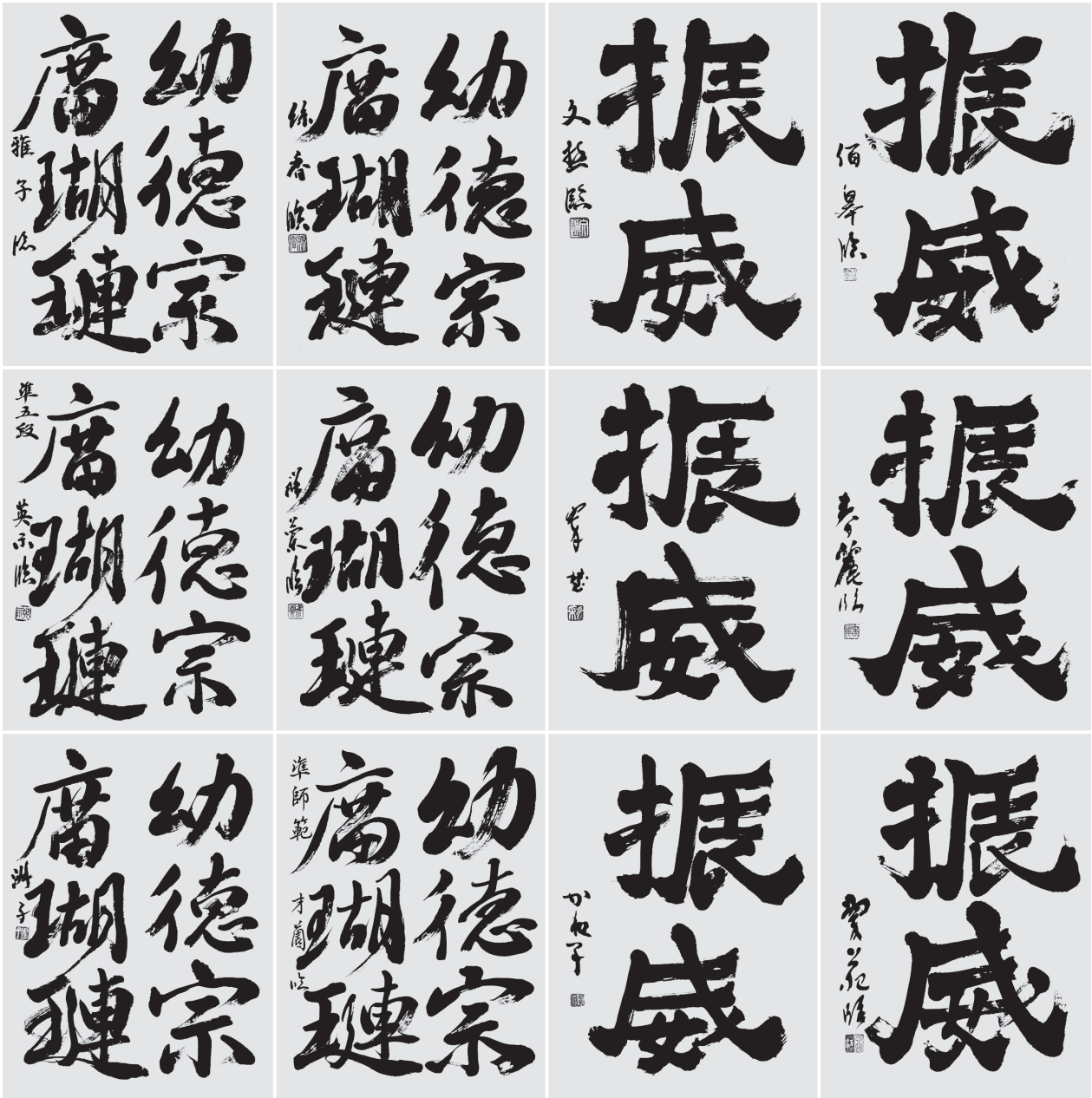
白幡陽子先生選評



川口三千代 推選
引き締まった細線しなやかで、味わい深い粘りある線質は勁く古筆の気風を捉えている。「かしこ・なくえ能」のゆるぎない連綿の妙、墨色の自然な移ろいに魅了される。

小柳琴心 推選
暢びやかな線条が歯切れのよいリズムを奏で、楽しさ広がる作。構成・文字遣いを独自のものにし、爽やかな墨色、緩急抑揚の運筆凛とし余白に響き合う創作。

武良霜伯先生選評



下司佰舉 師範
紙面に食い込む線力強い用筆、程良い渴筆が黒の中で効果を上げている。構築性のある凝縮された結体が魅力です。一層の飛躍を期待します。

佐藤文遊 準七
鶴亭先生の参考手本に忠実でその技法を見事に手中にしている。自然体で課題に真剣に取り組み、完成度の高い作品です。落款は〇〇臨雅印が適当

鈴木絲香 師範
半紙六文字が良く纏まっており、小振りだが技量の高さを感じる。これに遅速の変化をつけて、潤渇の表現を更に見せて欲しい。

磯野雅子 六段
左右、上下への振幅が大きく、躍動感に溢れています。潤渇のせめぎ合いも良く、章法が美しい。欲を言えば落款に一考されたし。

安田春麗 師範
横への伸びやかさが、左右の波法により強調されており、収筆に鋭さがある。濃墨を駆使しながら、筆の開閉が見事です。

谷澤翠慧 三段
やや硬めの筆でしよいか、字形の安定感、紙面における文字の配置もビタリと決まっております。完成度の高い作品です。落款は〇〇臨雅印が適当

三ヶ尻祥蘭 師範
紙面にくつきりとした線が定着し、明るく安定感があり二行目が特に素晴らしい。出だしの字間、バランスにひと工夫される事を望みます。

藤本英示 準五
顔真卿の草稿文の雰囲気筆勢良く運筆し、意先筆後を忠実に書き進めている。原帖を良く捉えているが、二行目の裾がやや下がったか。

今井翠苑 準師
落筆が高く、遠くから筆をぶつける様に入筆しており、強く紙背を貫く充実した線は素晴らしいです。落款も一字分上から書くこと更に可。

角辻かね子 二段
正確な用筆で良く線質が暢びている。起筆、収筆の鋭さもあり気魄のある作品です。ただ本文、落款も文字の中心を意識したい。

福島才蘭 準師
祭姪文稿の激しさや、気持ちの高揚して行く様を良く捉えながら、躍動感がある。墨色や落款も決まっていますが、雅印は場所が無かったのか。

服部淑子 六級
感情の高まりは、一・二行目共下部の文字に表れ、祭姪稿の激しさを上手く展開している。反面、気持ちが行し過ぎると連絡軽くなるので注意。